

## 第2回小田原市学校教育振興基本計画策定委員会会議録

- 1 日時 平成24年8月27日(月)午後6時00分～午後8時5分
- 2 場所 小田原市役所 601会議室
- 3 出席者 策定委員 二見 栄一、大輪 仁、小川 恵子、栢沼 行雄、  
高井 周作、畠山 康、神山 明美、瀬戸 祐明、  
片山 美代子、平松 章子、有賀 かおる(名簿順)  
事務局 前田教育長、三廻部教育部長、佐藤教育部副部長、松本教育部  
管理監、皆木保健給食課長、長澤教育指導課長、菴原指導・相  
談担当課長、阿部教育総務課副課長、山田給食センター担当副  
課長、柏木教育指導課副課長、下川施設係長、石井保健係長、  
早川給食係長、田中教育指導課指導主事、井上教育総務課主任

### 4 議事等の概要

#### (1) 開会

進行 阿部教育総務課副課長

#### (2) 教育長挨拶

#### (3) 委員紹介

#### (4) 委員長選出

大輪委員長を選出

#### (5) 議題 (1) 小田原市学校教育振興基本計画(案)について

資料 小田原市学校教育振興基本計画(案)

施策の展開

計画体系図

参考資料 「おだわらっこ教育プラン」の総括ほか

○資料に基づき教育部副部長から説明

○質疑、意見

大輪委員長…限られた時間の中での検討ということもございますので、協議をある程度絞っていただければと考えております。なお、施策の展開につきましては、お読みいただいて、後日、FAXやメールなどでやり取りをしたいと思います。

いう説明がございました。限られた回数の会議になりますので、今日の会議が有効に進むようによろしく申し上げます。

それでは、前段部分の目次を見ていただいて、特に「3 小田原市がめざす子どもの姿」、「4 学校、家庭、地域・社会、行政の基本的な役割」、「5 3つの基本方針」について、1項目30分くらいで御意見をいただければと思います。

まず、「3 小田原市がめざす子どもの姿」ですが、第1回策定委員会において、「小田原市がどのような子どもを育てようとするのかが見えない」という意見があったということが先ほどの説明の中でもありました。それにつきまして、御意見をいただければと思います。

島山委員…10ページには、心や学びはあるが、「豊かな人間性と健やかな身体、確かな学力」ということを総合計画で謳っているのですが、健康などの身体の一部が抜けているのではないかと思いました。

片山委員…せっかく小田原で生まれ育ったということで、小田原には二宮尊徳先生がいらっしゃるのですが、徳育・体育・知育というものを柱に出しても、小田原らしさはあるのかなと思いました。

栢沼委員…「3つの力」の部分は理解できますが、一般の市民にとってという視点で見ると、「3つの心」の部分が、具体的に子どもの姿として捉えた場合に、イメージが湧きにくいという感があります。これにもう少し肉付けをして、例えば「おだわらっ子の約束」は各小中学校で色々な形で実践しているということも聞いておりますので、そこと結びつけることが出来ると、小田原市がめざす子どもの姿というものが見えてくるのかなと思いました。

二見委員…前の項目との関わりを考えた時に、前の項目では、「教育をめぐる現状」ということで現状把握があり、その中から小田原が抱えている課題というものが恐らく明確になってくると思います。その明確になったものに対して、小田原としてはどのような対応をしていくかということが、めざす子どもの姿に関わってくると思います。そのような視点で前の項目の流れを見た時に、小田原という部分が少し弱いのかなと感じます。現状把握、課題の明確化、具体的な対応策がここに表れてくるような形が出来れば良いと思いました。

瀬戸委員…この「3つの心と3つの力を持った未来を拓くたくましい子ども」というものを選定された理由が明確に読み取れませんでした。前の項との繋がりが切れてしまっているように感じましたし、この「3つの心」と「3つの力」がどういった絡みで「未来を拓くたくましい子ども」になっていくのかも良く見えていないような感じがしました。

また、おだわらっこ教育プランの中で「生きる力」と表現されていた部分が、「未来を拓くたくましい」というものに承継されている部分も読み取れませんでした。

大輪委員長…「3 小田原市がめざす子どもの姿」への繋がりが分かりづらいという意見が多いですが、それは1つの押さえとして持っておいていただき、どのような流れにすると分かりやすいのかといった意見をいただくと、まとめていく上ではありがたいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

神山委員…「2 策定の背景」において、非常にきれいに数値化してあるので、ここで数値化したものをもう少ししっかりした言葉や形にして、「3 小田原市がめざす子どもの姿」に繋げていければ良いのではないかと思います。どこを見てどう思ったから温かい心が必要なのかなど、結論としては、「2 策定の背景」の文をもう少し充実させれば良いと思いました。

大輪委員長…例えばどのあたりの説明を充実させれば良いといったような意見はございますか。

神山委員…少子化が進行しているということで、子ども会自体の規模が小さくなってしまっており、核家族や共働きが増えたことで、役員になりたくないから子ども会に入らない、マンション暮らしなので地域との関わりを持たない、そうすると横の繋がりが出来ないので、関わる力が育つ場所や機会がなくなってしまうと思います。自分たちの家族で収まってしまって、何かあったら人を責めれば良いという短絡的な思考に繋がる懸念もあると思います。そういったことを避けるためには、大人から子どもまでが人と関わって、良いこともあるし悪いこともあります、ちゃんと生きていけるということを教えることで、例えば、「3つの心」の、何で温かくなければいけないのか、寛容でなければいけないのか、何で人生の困難を逃げないで乗り越えなければいけないのかを自分でも分かってくると思います。そ

のためには知識と教養が必要だし、創る力は、そこから何かを学び取って、自分のオリジナリティが出来ていったら、自分の夢を持った子どもが育っていくのではないかと思います。

大輪委員長…人との関わりの場面について、「家庭の教育力の低下」や「地域でのつながりの希薄化」の文言にもう少し入れ込んで、「3 小田原市がめざす子どもの姿」に繋げるようにすれば良いのではないかとということで、例をいただきました。

神山委員…そのように、誘導してしまう文にしても良いと思いました。

栢沼委員…先ほどの意見でもありましたが、策定の背景を受けて、めざす子どもの姿が生み出されてくると思います。「社会状況の変化」や「教育をめぐる現状」の中で、整理した上で記載するという文言がありますが、めざす子どもの姿が出てくるような形での整理をしていかないと分かりづらくなると思います。

例えば、3 ページに「少子化の進行」とありますが、子どもの姿と関連させますと、少子化になると、環境的に人と関わる力が非常に弱くなって来て、人と関わるのが苦手な子どもが多くなってくると思います。そのことから、今後の小田原市がめざす子どもの姿としては、関わる力をつけなければならないといったようなことが出てくるだろうし、7 ページの「学力の状況」のグラフを見ると、知識についてはまあまあなのですが、活用については知識に対して低くなっています。その活用する力というのが、10 ページの学ぶ力の中にも入ってくるべきだろうと思います。そのような連動といますか、背景があって、色々な状況の中から小田原市としてはこう分析し、その課題を解消するためにめざす子どもの姿として表すといったような絡みが出てくれば良いと思います。

策定の背景が未完成なので、現状だけではなく、そこから何が小田原市として求められてくるのかということをそれぞれに記述し、最終的には、めざす子どもの姿に繋げていくといったような視点で記述すれば個人的には良いと思います。

平松委員…私も同様に感じます。グラフで終わってしまうのではなく、小田原市としてはどうなのかを具体的に記述することでみんなに伝わるのではないかと

思います。大変だとは思いますが、それがなければ前には進まないのではないかと思います。

瀬戸委員…策定の背景を読んでいると、施策の展開にどう繋がっていくのかが分かりませんでした。単純に言えば、「少子化の進行」、「家庭の教育力の低下」などに対して、何をどうしていくのかということが、分かりづらいと感じました。また、(6)の「環境・エネルギー問題の深刻化」という部分では、エネルギー問題として擦り付けていくのか、環境とエネルギーという2つの問題と分けて考えていくのかが分かりませんでした。単純に東日本大震災があったので、エネルギー問題に持っていくのか、原発事故の関係で環境なのかということで、これだけではこの部分で何を言いたいのかが分からないですし、どういう施策に展開させていくのかが見えてこない気がしました。また、エネルギーの問題をこの部分に入れ込んでよいのかということもあるのではないかと感じました。逆に環境に特化したほうがここでは分かりやすいのではないかと思いますし、その中の1つとしてエネルギーがあるのではないかとということと、放射能や原発の問題を扱うということについても、もう少し書き方があるのかなと思います。施策の展開を見ても、よく分かりませんでしたので、どうしていききたいのかを明確にしていったほうが良いのではないかと感じました。

大輪委員長…環境の問題は施策の展開の「確かな学力の向上」の中に出て来ますが、環境問題については、エネルギー問題と分けたほうが分かりやすいという御意見ということでよろしいでしょうか。

瀬戸委員…エネルギー問題を、放射能と一緒にして良いのかというような疑問もあります。

栢沼委員…(6)についてもそうですが、未完成なので見えない部分がたくさんあると思うので、大筋を整理していきながら次に繋がるように進めていったほうが良いのではないかと思います。

教育部長…(6)につきましては、持続可能な社会を構築していくということを表していくのに、表現が足りない部分があるということは認識しています。

大輪委員長…まだまだ文言を整理して、付け加えなければならないこと、削らなければならないことはあると思いますが、全体の構成の流れとして、このよう

な形ということでの提示だと思います。「3 小田原市がめざす子どもの姿」にどのような形で反映してくのかという、最初のラインに戻して御検討いただければと思います。

有賀委員…「3つの心」と「3つの力」に「関わる力」が跨っていますが、これは、自然や人との関わりの中で、心も養っていくという捉え方で良いのでしょうか。「3つの力」として出ているので、「学ぶ力」や「創る力」と並列で表記されたほうが、見た感じは自然だと感じました。

教育指導課長…人・もの・ことの全てに関わるという力が土台にあって、人と関わる中で温かい心や広い心、燃える心が培われるだろうということで、御意見にあったように「3つの心」と「3つの力」は別々にしたほうが良いのではないかと分かりますが、私たちとしてはやはり、その部分を大切にしたいという考えがありますので、それが一般の市民の方に分かるように文言等も検討していきたいと思います。

栢沼委員…「関わる力」については、今の説明で私も正解だと思います。人としての関わり方もあるし、学ぶ力でも、1人よりもグループ学習などで助け合い、お互いに切磋琢磨していくことなど、全てにおいて「関わる力」、平たく言えばコミュニケーション能力が、今の子どもたちに欠けてきているのではないかと思います。その中でいじめや不登校が起こっているし、色々な部分でこの「関わる力」をどう付けるかが、これからめざす子どもの姿の中で、根幹になってくる気がします。後はその意図が分かるような表現や構成の仕方をすれば良いのかなと思います。

畠山委員…例えば、図の上部の「3つの心」と「3つの力」という楕円形の図をなくしてしまえば良いのではないかと思います。それで、「関わる力」の欄の背景を白くすれば大体のイメージが出てくると思います。それに下の部分を横串にして、「たくましい体力を持った」というような体の部分を加えていただければそれでイメージが沸くと思います。

大輪委員長…これまでの御意見で、10ページの図の課題というものは見えていますので、また事務局で検討していただければと思います。

また、先ほど片山委員から、小田原ならではのということで、二宮尊徳の話が出ましたが、この中に1文字も出てきません。あえて入れなかった理

由はあるのでしょうか。

教育指導課長…「3つの心」と「3つの力」という文言で表していますが、この土台には二宮尊徳の教えを関連付けて、この文言が生まれてきております。二宮尊徳との関連をどのように表記するかは、検討させていただきたいと思っております。

畠山委員…それは14ページの「小田原ならではの教育スタイルの確立」の部分に入ってくるのだらうと思っております。ここに書いてある「地域一体教育」や「幼保・小・中一体教育」などは、他市でもやっていることだと思っております。郷土の歴史や伝統、二宮尊徳、海・山・川が全て揃っているなど、そのようなものが小田原ならではの特色だと思うので、二宮尊徳はここに入れ込めば良いと思っております。

前田教育長…二宮尊徳先生の事績については、小田原市民の皆さんが認める場所にはあるのですが、尊徳思想などということがございますので、あまり前面に打ち出しづらいという本音があります。ただ、「3つの心」と「3つの力」は二宮尊徳先生の教えに裏打ちされています。「温かい心」は「至誠」の考え方、「広い心」は「推譲」、「燃える心」は「報徳思想の全て」、「学ぶ力」は「勤労」、「創る力」は「心田開発」、「関わる力」は「一円融合」というように、説明すればそのような背景はあるのですが、中々前面に出しづらいということもございます。ただ、御意見いただいたとおり、表記の仕方については検討したいと思います。

神山委員…そのあたりの兼ね合いは分かりませんが、学校の校庭や小田原駅には二宮尊徳像がありますよね。

前田教育長…確かに市内の学校には二宮金次郎像があるところが多いですが、小学校25校中9校にはありません。像がない学校には新たに設置すべきだと考える方もいらっしゃいますし、戦争に思想が使われてしまったということや、大久保藩と最後はうまくいかなかったことなどもあり、反対する方もいらっしゃいます。どの程度教育的に配慮していくかということは課題となっています。

また、二宮尊徳学習は市内の小学4年生で実施していますが、それはあくまでも二宮尊徳の事績を検証するということに特化して実施しています。

片山委員…そう仰いますが、9校がないだけで、1校に3つもある学校もあります。

例えば栢山地区ではどこを見ても二宮尊徳に関連したものがありますが、そのように日常の中で見ている、今の小中学生をはじめとして、40代の大人でさえも二宮尊徳を知らないです。50人に手を挙げさせたら、二宮尊徳先生の名前を知っている人は1人だけでした。そういった状況の中で、中学校の校歌には二宮尊徳の言葉が入っている学校もあります。私の息子は40代ですが、30年前に教わった歌詞をしっかりと覚えていまして、その時には分からなかったけれど、今になって考えれば良いことを言っているということでした。それを別のところに置いておいて、他のことを考えようということにはならないと思います。この部分に小田原の色が出ないのであれば、小田原市としてめざさなくても、日本の子どもたちがめざすことは一緒だと思いますので、この部分は色を出しても良いと思います。

大輪委員長…このめざす子どもの姿の背景には、二宮尊徳の教えは入っていますが、それを前面に出すか出さないかを含めて、文言を考えるとということでしたが、委員の御意見の中には、小田原で出てきたこの偉人の教えを、この中にもう少し強調して欲しいというような御意見もあるということを含んでいただければと思います。

教育指導課長…参考までに、施策の展開の中には、「小田原の良さを生かした学習の推進」という部分で、「二宮尊徳学習事業」とございますが、二宮尊徳について学ぶという学習を、小田原市の全ての子どもたちが小学校4年生で通過しています。

片山委員…今までもそうだと思うのですが、今の子どもたちは何も知らないのが現状です。

有賀委員…学習した成果を市役所ロビーなどに展示していますよね。すぐろくを作るなど、工夫して学習していると思いますが。

二見委員…二宮尊徳先生が行った具体的な姿は中々、子どもたちには見えづらいということはあるかもしれません。

片山委員…そういう意味ではなく、二宮尊徳という名前を知らないということです。二宮金次郎と言えば分かる子どももいますが、それでも分からない子どももいます。



神山委員…校庭に銅像が建っているのです、先生方が年に1回程度、朝の会などでお話しすれば良いと思います。このめざす子どもの姿の部分でそれを強調するのも良いのですが、先ほどもお話しにあったように、「小田原ならではの教育スタイルの確立」の部分に一言だけでも入れれば問題はないように思います。

栢沼委員…教育長も仰っていましたが、報徳仕法の精神が、文言は違うけれどもこの部分に活かされているということ、少し触れていけばそれで良いと思います。思想的な部分は、教育の中ではシビアな点もあるので、そのようなまとめで良いのではないのでしょうか。

教育部長…前段部分で小田原の独自性を何も出していないので、検討していきたいと思います。

大輪委員長…めざす子どもの姿の中で、レイアウトの問題、説明の部分、体力を入れ込んで欲しいなどの要望があったと思いますので、御意見を反映させていただいたものが出てくることを期待したいと思います。

他に何かございますか。

瀬戸委員…先ほど畠山委員も仰っていましたが、14ページの「小田原ならではの教育スタイルの確立」の部分をもっと充実しない限り、他市と同じになってしまうと思います。歴史や地理、今話題になったような部分などを、もっと入れていただければと思います。

栢沼委員…この部分を充実させるということは賛成なのですが、参考資料で「おだわらっこ教育プランの総括」というものがありまして、これまでのプランの総括が、きちんとまとめられています。小田原の教育スタイルといった時に、例えばスクールボランティアのような、他市でもやっても、全国的に見て、特に小田原が成果をあげているようなものが、いくつかこの中から拾い出せるのではないかと思います。この参考資料の文言をもう少し整理して、いくつかこの部分に入れ込めば、小田原の教育スタイルの特徴が出てくると思います。

また、「小田原市教職員アカデミープラン」の1番下にあります「おだわら未来学舎」などは、1つの小田原の教育スタイルというか、システムだと思います。色々な研修は他でもありますが、これは小田原独自のものだ

と思いますので、そういったものを全体からもう少し拾い出して入れ込んでいけば、小田原らしさということが自信を持って語れると思います。

神山委員…2ページ目の図の中に、小田原市文化振興ビジョンなどの具体的な計画がいくつかあります。私もこれらは読んだことはないのですが、この中を探してみれば、子どもたちに関わっている中で小田原市独特のものが拾い出せそうな気がします。

大輪委員長…先に進みますが、今日の協議の中で核になっていましたのは、小田原の子どもたちのめざすものが見えにくいという前回会議での意見を受けて、叩き台に対して色々な御意見をいただきました。既に14ページの部分で意見をいただいているものもありますが、11ページ以降も含めて御意見をいただけますでしょうか。

畠山委員…13ページの知・徳・体の順番ですが、小田原市総合計画を作成した際に、総合計画の順番では「豊かな人間性と健やかな体、確かな学力を持った子どもたちの育ち」となっていましたが、確かな学力が1番で、次に豊かな人間性、最後に健やかな体ではないかということで意見をしましたが、その際には、そのままいくということでした。この計画では知・徳・体の順番になっており、総合計画との整合性の問題と、文部科学省の教育振興基本計画との整合性の部分が気になります。

教育部長…国の計画では知・徳・体の順番になっています。

畠山委員…総合計画では知の部分よりも豊かな人間性を重視すると言っている訳ですが、そこの関連性はどのようなのでしょうか。

教育部長…総合計画の際の並べ方はそうなってはいますが、その3つは並列のもので

す。  
栢沼委員…生きる力や生き抜く力というものには、学力と心、健やかな体の3つがありますが、順位制で理解していくものではなく、3つが相互に関連して、そのトータルとして出来上がるのが、生きる力や生き抜く力だと思います。本当は3つの円が重なっているような図を使えば分かりやすいとは思いますが。

二見委員…国や県はそのような図を使っていますよね。

教育部長…作り上げていく時には色々な写真や図を加えたりしていきたいと思います。

大輪委員長…字を少なくしていただくなどして、また、順位制はないという認識でレイアウトしていただければと思います。

瀬戸委員…12ページの「行政」とは教育委員会のことでしょうか。

教育部長…予算などのように市長の権限で動いている部分も多いことから、教育委員会と言い切ることも出来ないので、行政という文言を使用しました。

大輪委員長…子どもに関わる行政ということですね。

瀬戸委員…11ページの「家庭の役割」3行目で、「学校での学習」とありますが、「学習」と「教育」と言う文言の違いはあるのでしょうか。

教育指導課長…「教育」というと、「教育理念」のように全体を指すことが多いです。「学習」というと、授業での学びなどの狭い意味で使われることが多いです。今は「授業」というよりは、主体的に子どもが学ぶということで「学習」という言葉を使うほうが多くなっています。「教育」を使うか「学習」を使うかは文言全体の中で判断しなければならないと思いますので、検討したいと思います。

瀬戸委員…この項の全体の中で、3番の「地域・社会の役割」の部分だけが、「いきます」という表現ではなく、「なります」となっており、ニュアンスが違うような感じを受けました。また、地域・社会の部分の文言は、もう少し噛み砕いても良いのではないかと思います。

前田教育長…私たちが子どもの頃は地域のおじさんに叱られて育ちました。また、向こう3軒両隣といった文言もありました。地域でのイベント的なものだけではなく、そのあたりも入れていければ良いと思います。

神山委員…この部分も先ほどの知・徳・体のように横並びにして、お互いが横にいてやっているということを強調したほうが良いのではないかと思います。

また、施策の展開で「教職員の資質・指導力の向上」や「学校経営の改善・充実」といったようなものもありますが、学校や行政が頑張っているということをもう少し盛り込んで、アピールしても良いのではないかと思います。

大輪委員長…今の御意見は、順番を付けずに、横並びでやっていることを上のほうに表記して、その後に文言を補完するような形に変えたほうが良いということでしょうか。

神山委員…ここでは子どもを取り巻く環境のことを言っているので、順番にこだわりはないのですが、これだとそれぞれが独立しているように取られる可能性があると思うので、最後にでも図などで、横並びでやっていることが分かるようになれば良いと思います。

大輪委員長…1番上で基本的な役割と謳っているのですが、はじめに同列で頑張っているというイメージが伝わるようなものがあり、それを補完するようにこの説明があれば分かりやすいように思います。特に、教育長が言われたように、家庭の教育力の低下や、地域の行事が少子化の影響で減ってきているということを、小田原ならではのことで、何とか復活できるような思いや願いがあっても良いのではないかと思います。

栢沼委員…役割ということだけでなく、協働というようなニュアンスも表記したほうが良いのではないかと思います。

大輪委員長…今までの御意見をまとめますと、11ページは今の考え方で文言を増やしていただくことと、13ページ以降の「3つの基本方針」では、知・徳・体の順位制がないような形にさせていただくこと、「小田原ならではの教育スタイルの充実」の部分の、小田原ならではの部分をもう少し膨らませていただくことができました。14ページの「教育環境の整備・改善・充実」の部分はいかがでしょう。

栢沼委員…「地域の防災拠点としての機能」とありますが、学校教育施設について、小田原市は耐震については非常に進んでいるのですが、広域避難所となった場合に高齢者や幼い赤ちゃんに対応できるのかと考えた時に、トイレなど中身の部分があまりにも貧弱だと思います。防災の観点からも、学校教育施設の環境を整備・改善・充実していくということをもっと強調していただきたいですし、予算編成の際にも、教育環境の改善をということだけではなく、防災の面からも予算を取れるように、自治会総連合もバックアップしますので、市民の安全安心を考えて、この部分の文言をもう少し強調して欲しいと思います。

瀬戸委員…下から3行目に「校庭の芝生化に積極的に取り組んでいきます」とありますが、全校でやるという前提の中でこのような文言を入れているのでしょうか。

教育部長…現在、新玉小学校、下府中小学校、東富水幼稚園、酒匂幼稚園で実施していますが、これは市長の第2ステージで力を入れていきたいという部分ですので、取り組めるところから実施していきたいと考えています。

神山委員…芝生化した評判はどうなのでしょう。

前田教育長…評判は良いです。子どもたちの怪我が少なくなりましたし、外遊びの機会も増えました。目にも優しいです。ただ、ある面では良いのですが、学校任せになってしまうと先生方が大変になってしまいます。新玉小学校の場合は地域で管理委員会が立ち上がっていますので、地域全体で管理していただいているのですが、それでも先生方に大変さが降りかかっているということもございますので、そのあたりが先生方に保障されないと中々難しい面もあると思います。

教育部長…温度も下がるようでした、データでは8度くらい違うようです。

二見委員…熱中症対策には凄く良いです。また、教育長の話にもありましたが、芝生にしてから骨折などの大きな怪我がないです。管理や運営などの課題はたくさんあるとは思いますが。

教育部長…これも「小田原ならではの」と言えると思います。

神山委員…確かにそちらに入れても良いと思います。この文の中で、これだけがやけに具体的に感じましたので、施策の展開に入れても良い感じはしました。逆に施策の展開にある「快適な学校環境の整備」という言葉をこちらに入れても良いのではないかと思います。

大輪委員長…そのあたりの文言の整理は今後やっていかなければならない部分なので、次回はそのあたりが出来れば良いと思います。

その他何かありますか。

二見委員…施策の展開の1ページ目で「主な取組」として3つ挙がっていますが、「少人数学級の実施」は具体的で分かりやすいのですが、上の2つは具体的なものが見えてこないです。確かな学力を定着させるためにスクールボランティアを入れていたり、少人数授業をやったり、個に寄り添うことをやっていたりと、色々なことをやっているのですが、この文言を見ると「培います」で切られているので、実際に何をやっているのかが見えません。このあたりも整合性を取って、誰が読んでも分かるような形になれば良い

と思います。

畠山委員…6 ページに「危機管理への対応」のようなものもあっても良いと思います。

地震、津波に加え、大津市のようなこともありましたので、教育にとってははじめも危機管理の1つだと思います。そういったものをまとめて、危機管理の感覚が今までと違って来たという社会情勢の変化を受けて、栢沼委員が仰っていたような防災の部分に繋げるという形にしても良いと思います。

また、前回の会議の中で、小田原の教育の立ち位置が分からないということをお願いして、学力と体力は出てきたのですが、小田原の立ち位置が分かるのは、他市と比べてどうなのかといったことを見るのが分かりやすいと思うのですが、例えば、少人数学級が他市と比べてどうなのか、いじめの件数が他市と比べて多いのか少ないのかなどが分からないと、小田原は何を強化しなければいけないのかが分からないと思います。前回会議でも申し上げましたが、福祉部では他市との比較の一覧表を作っていますので、教育委員会でも数年前のものでも良いので出していただければと思います。

教育指導課長…他市との比較となると、市の規模などによって、同じ数字を横に見たとしても、割合が違うなどということがありますので、難しい部分があります。少なくとも全国や県と比較して小田原市の割合比などは出せるとは思います。

畠山委員…少人数学級など、小田原市の子どもたちへの支援体制が他市と比べて劣っているのではないかと危惧しているので、そこは安心させてもらいたいし、何かそのような資料は出せないのでしょうか。

教育指導課長…事業名がそれぞれ違いますし、全てを調べることは難しいと思いますが、スタディサポートスタッフのようなものを他市で実施しているところはどこなのかなどといったようなものは出せるとは思います。

教育指導課副課長…福祉部の場合は厚生労働省報告例といたしまして、統計が全て出ていますので、データが取りやすいです。教育の場合は各市町で事業名や取り組み方が違うので、データがすぐには取りづらいということがあります。

畠山委員…学校基本調査のようなものでは出てこないのでしょうか。

教育指導課長…県全体などは分かりますが、他市のものは出てきません。

片山委員…いじめについてですが、神奈川県は日本一いじめが多いということで、昨年からは事業をやっておりまして、今年も2年目として「神奈川県子どもスマイル」というイベントをやるのですが、県がワースト1ということであれば、小田原市もまずい状況なのではないかと思えます。8ページにいじめの認知件数が載っていますが、小田原の数字がどの程度のものなのか、状況を教えていただきたいです。

教育指導課長…近々、昨年度の結果が公表されますが、小田原市としてではなく下地区としてのものになります。なお、8ページの図はいじめの認知件数しか載せておりませんが、それ以外に改善率も出ています。

神山委員…いじめなどの改善率は数字としてこの図に載せることが出来るのであれば、載せたほうが良いと思えます。

教育指導課長…21年度以降の改善率を載せることは可能ですが、20年度以前はそのような数値の出し方はしていませんでしたので、載せることが出来ません。ちなみに21年度の改善率は98.5%、22年度は88.6%、23年度はこれから公表される予定です。

神山委員…今、改善率をお願いしたのは、人口や子どもの数なども市によって違うので、数で判断する訳にはいかないものだと思います。医療の場でもヒヤリハット問題ということで、危ないと思ったらなるべく報告し合いましょうということがあります。もしかしたら小田原市は他の県や市より、そのようなことに気付いて報告するシステムが出来ているのかもしれないという捉え方も出来ると思うので、もしそうであるのならば、学校現場が頑張っている部分を伸ばしていただければと思います。

畠山委員…ちなみに県議会で教育長は、「全国でもいじめの数がトップクラスなのは、いじめと思われることもいじめと捉えて報告しているから多くなっている」という答弁をしています。

神山委員…私も、いじめと思われることも入れるべきだと思います。

二見委員…いじめは捉え方が凄く難しいものだと思いますが、神奈川県はいじめの疑いがあるようなものも全て挙げていますので、ある意味正しい数字が出ていると思います。ただ、他の県については、ここ数ヶ月のものについては

調査中としたりと、あまり明確化されていないと思います。最近、実際にはいじめがあったと発覚することがありますが、他の県に比べて神奈川は少ないと思います。これは、いじめの疑いがあるようなものも全て挙げていることによると思います。

(6) 議題 (2) 今後の進め方について

資料 小田原市学校教育振興基本計画策定スケジュール案 (資料5)

○資料に基づき教育部副部長から説明

○質疑、意見

栢沼委員…素案が煮詰まった段階で、自治会総連合の定例会で教育委員会から概要を説明していただければと思います。

(7) その他

○次回の日程を10月中旬にしたいので、卓上配布の日程調整票に記入の上、返送いただきたい旨を説明。

○9月10日までにFAXやメールなどで1回目の意見をいただきたいが、資料4を参考様式としたい旨を説明。

二見委員…このFAXやメールは、今出た以外の意見ということでよろしいですか。

教育総務課副課長…今いただいた意見はこちらで把握させていただきましたので、その他に追加があればということをお願いします。

栢沼委員…どこの切り口から意見を書くかは委員の自由ですが、教育委員会として今日の会議での意見のある程度、整理していただいて、もう少し厚くしていかなければならない部分などの項目をいくつか挙げていただき、それに対して委員が意見を書いていったほうが早くまとまっていくのかなという気がします。自由に書くと、取りまとめが大変になってしまうと思います。

神山委員…自由に書くと、今日の繰り返しになってしまう可能性もあると思うので、そのような形にさせていただくほうが良いと思います。

(8) 閉会